



葛飾ろう学校における日本語検定への取り組み

東京都立葛飾ろう学校 高等部教諭 佐野 彰則

本校は、幼稚部から高等部専攻科までの、聴覚に障害のある幼児・児童・生徒が200名近く在籍している全国で2番目に大きなろう学校です。

ろう学校にいる生徒の多くは、手話を主なコミュニケーション手段、あるいは補助的なコミュニケーション手段としています。生徒同士の日常的な会話は、お互いに手話ができるので不自由はありませんが、社会に出ると手話が通じない会社がほとんどです。事実、本校卒業生の就労先では、筆談や口話、メールによるコミュニケーション等が中心になっています。



一般の人が「聴覚障害」と聞くと、音が聞こえないために言葉の聞き取りや発語が苦手で、手話でコミュニケーションをとるというイメージが強いのですが、実はそれだけではありません。言語獲得期に耳から自然に日本語が入ってこないため、また手話に助詞や助動詞、敬語や尊敬語がないため、正確な日本語を使うことが苦手な生徒が少なくないのです。

そのため、本校では開校以来、日本語力の向上を大きな課題と捉え、積極的に取り組んできました。従来から取り組んでいた朝学習や、各教科の授業の中での言語指導等に加え、平成24年度から、生徒の総合的な日本語力を確認できる客観的な指標として、日本語検定を取り入れました。

日本語検定では、漢字の読み書きだけでなく、語彙や敬語、文法、言葉の意味、表記等がまんべんなく出題されており、受検結果が分野毎に記載されるため、聴覚に障害のある生徒が自分の弱点を確認する手段として大変役立っています。

本校では、今後も日本語検定を通して、聴覚に障害のある児童・生徒の日本語力の育成を図っていきたいと考えています。

